

# 蓬萊町だより

第五十五号  
平成11年12月15日  
平成 蓬萊町 会部  
発行 者 蓬萊 町 化  
編集 者 文 化

蓬萊町界隈（その四十九）

蘇るか？天下祭

江戸ゆかりの山車フォーラムに参加して――

林 順信

◆なぜ小江戸の都市が集まるのか……

まだ残暑のきびしい本年の九月二十三日午後、墨田区にある江戸東京博物館で、第二回の「江戸ゆかりの山車フォーラム」が開かれて、約三千人の参加者で賑わった。

東京からは山王祭と神田祭の氏子町内からの代表者や、千代田区長、中央区長、また、神田明神の大鳥居宮司も参会された。

後援者の中には、わが根津神社の名も連なっていた。主催者側では、山王祭、神田祭、根津権現祭の天下祭り三社の名入れの扇子や手拭いを特別に制作して、会場で販売されていた。私は日本神輿協

会の相談役であり、小舟町（江戸三天王の三の宮）の黒川治良氏や神田祭の世話役の東神田睦の山瀬一男氏から招待をうけて参加した。前列から二列目で、立教大学の松平誠教授や、文部技官と席を列ねた。

今回は、山王祭と神田祭の総代のほか、関東一円の「小江戸」と称される、山車まつりの盛大な各都市から、運営に当たられている諸氏から、御祭礼にむけて山車の位置づけについて説明や今後の問題点などを、ビデオを見ながらの勉強会を行った。

栃木県烏山町の「烏山山あげ祭」、熊谷市の「熊谷うちわ祭」、佐倉市の「佐倉の秋祭り」、佐原市からは「佐原の大祭」、八王子の「八王子まつり」と、何れも江戸ゆかりの山車を中心とした御祭礼の様子がつぶさに報告された。

これらの都市以外にも、栃木市、鹿沼市、日立市、川越市、青梅市など、「小京都」というのではなく、主として関東平野をめぐる河川による物流の行われた、むしろ「小江戸」というにふさわしい町々でも、大祭の氏子の参加は、江戸時代から現在まで、伝承されてうけつがれている。そういう都市ではいわゆるコミユニティがまだこわされずに保たれている。このことは、それ等の御祭礼が町お

こしに連なり、観光客や来訪者の誘致につながるからだという見方では、この様な伝統行事が永年の間連続として受け継がれていることの、もっと根底に脈々と生きつづけている郷土や町への愛と誇りと自信のほどを知ることが出来ないだろう。

開発や過度の市街地化の熊谷や八王子でも御祭礼のとり行いは、年を追って盛大になっている。

なぜこれらの都市が、天下祭のフォーラムに出席してくるかと言うと、今から百三十年以上前の東京がまだ江戸と言われていた頃の、江戸市中の御祭礼は、山王祭、神田祭、根津権現祭、赤坂氷川祭、深川八幡祭や三社祭でさえも、神輿というのは、本来御本社の宮神輿だけであり、氏子町内での御祭礼への参加の仕方は、山車、屋台、抜け屋台、手踊りなどによるものであった。明治維新後、電線が市中に張りめぐらされて、背の高い三十メートル近い山車（ビルの八〜十階相当）を曳くことは困難となつて、御祭礼は年を追って簡素化になつたこと、明治政府の江戸徳川時代の盛大だった祭礼絵巻を快く思わなかつたことなどで、ことに江戸三天王祭などの氏子範囲の縮小や、祭礼への制限などがあげられる。

この間、曳けなくなつた名人の山車、

三代目法橋原舟月や松雲齋徳山や古川長延などによる江戸独特の人形山車が、関東の地方都市、栃木、川越、青梅、飯能などへ流出されて行った。これらの諸都市では江戸流れの山車のほかに、自分たちの町々で、当時の名人に山車の制作を依頼してきている。

これが現在観るに足る川越祭や佐原祭などを演出する源となっているのである。今や全くといっていい位忘れられている、かつての江戸の御祭礼を、いまふたたび甦らしたいという動きがここ数年、東京の下町の青年達を中心に盛り上がりを見せつつあるのである。

◆江戸は老いたり、山王も神田も根津も

江戸時代は、山王と神田、それにたった一度だけ根津も、「天下祭」を挙行した、というより挙行させられたと言うべきであろう。「天下祭」とは、江戸町人たちの主催する祭礼ではなくて、徳川幕府が天下人の権勢と江戸の弥栄をことほぐべく行わされた「宮祭」と受け止めるべきである。寺社奉行、町奉行、勘定奉行の三奉行のとり行う役目の祭礼で、費用もお上からちゃんと何千両と出ている。警固に当たる武士や、三ヶ町、南伝馬町、大伝馬町、小伝馬町（のちに小舟町）の

人々は、「国役」として奉仕する。その代りに地租税は免除である。あの神田祭の先達をつとめる雌雄の大獅子頭も、幕府が町々へ貸し与えたもので、修理を町内費用で賄うなどもつてのほか、幕府にて修理を行うとされていた。

江戸城内での將軍の御上覧も、御殿女中からのリクエストによる「附祭」もすべて、お上から指示があつて、その費用も一町へ二百両くらい出ていた。現在一両は約五万円だから、ざっと一千万円のお手当てが出されていたが、お上の期待にそうべく、さらに同額以上の出費がかさなつたから、山王と神田は隔年の大祭となつた。

明治以降は、幕府は崩壊して、明治三十年くらいまでは、かろうじて昔の山車の巡行は行われていたが、昔日の盛況は実現しなかつた。

それなのに、現在に至るも、山王と神田、根津をはじめ、亀戸、牛島など各神社の御祭礼は、神社の格式が偉すぎて、われわれ氏子の御祭礼行列への参加の仕方は、全くといってよいほど等閑視されてきている。

その上、都心では再開発で、高層ビル化が進み、地べだに氏子の住まない、コミュニティの喪失という現実が起きた。「ふるさと東京」なんて空念仏ばかりが先

行して、御祭礼での氏子であるという自覚も、喜びも、従つて誇りも年々薄らいで行くばかりである。

山王も神田も根津も老いたりと言いたい。現在東京の中で、御祭礼が来るたびに、地方に出ていった氏子たちが、ふる里へ帰つて来てまでも御祭礼に参加したいという神社はどこだろう。

佃の住吉祭、小舟町の八雲祭、深川八幡祭、浅草三社祭、品川天王祭、南千住天王祭、鳥越祭、千住の各町の氷川祭くらいなものだろう。

ところで、最近になつて、神社の御輦にはあき足らず、御本社神輿を渡御させた、それも氏子各町の町内渡し形式で御祭礼をとり行う神社が年々増えて来ている。

深川の富岡八幡宮は、ここ十年の間に第一宮神輿（台輪五尺）、第二神輿（台輪四尺五寸）を新調し、三年に一度、氏子がかついで渡御を始めた。神田明神でも、現在四尺一寸の宮神輿を六世宮惣が製作中で、今年十一月十二日に催される天皇陛下即位十年の国民祭典で披露め担ぎが行われる。

また鉄砲洲稲荷の八丁堀の名人秋山三五郎師の四尺一寸の宮神輿が、ついに明年五月に、かつがれての渡御を行うことになつた。これは氏子町内に歌舞伎座、

新橋演舞場をはじめ、鉄砲洲、新富町、東銀座が含まれている。さらに、駒込の天祖神社（神明様）の御本社神輿が明年九月に町内渡しをすることになっている。

私がなぜこの様に、御本社神輿の渡御について熱を込めて陳述しているかと言えば、およそ神社と氏子との心の結びつきを、より濃く強くするのが、御神体を御載せた宮神輿の町から町への、氏子の肩にかつがれての渡御によってこそ、より確かな、何歳になっても忘れられない、いわば強い「結縁」として感じとれる、そこが大切なことだからである。私はその感激を味わうことなくよわい七十を越してしまった。

鳥越神社、三社権現、下谷神社、湯島天神社、小野照崎神社など、あの宮神輿の町内渡しを行うことよっての、神社との結びつき、氏子各町内同志の親睦、そして氏子の持つ誇りを羨ましく思うからこそ、根津権現でも、御本社神輿の町内渡しを、なんとしてもとり行うように神社及び氏子総代の方々に心からお願ひしたい。古くて重要神輿なのでかつげる宮神輿がないのなら新調したらいい。そのための寄付ならいくらでも出したい。神輿はかつぐための神様の乗物、鳳輦は曳いて歩くための乗物で、ここところが解っていないと、五世宮惣の村田桂一

先生から「神輿を鳳車に乗せて曳いているところがあるけど、あの様な見つともない真似をしないようにね」と私は念を押されて閉口しているのである。

今秋十一月、今上天皇御即位十周年で、山王では日本橋松物町、神田では神田明神の宮神輿が、お披露目をかねて皇居の中に入って御天覧をうるといわれている。

また、水天宮様は、氏子を持たないお宮だが、地元の町々の有志で、五月五日の大祭のときにかつげる宮神輿を作って欲しいとの願ひに、神社から三千万円をばんと出したというのが、今江戸っ子の間で大評判になっている。その心意気だけでもやはり下町はすごいと思う。

西暦二千年を節目に、従来のしきたりや因習をかなぐり捨てて、活力ある生き方を見出す。その一つに御祭礼の持つ意味は大なるものがあると思ひ、敢えて提言する。

このままでは、しほんでしまうぞ!!  
根津の氏子は迫力がなさ過ぎないかな…。



## 町会活動の概要

平成十一年六月中旬から

十月中旬まで

### 総務部

- 6 / 12 蓬莱町会定期総会 常端寺
- 6 / 25 文京つつじ会総会
- 7 / 12 定例役員会
- 13 盆踊り準備委員会
- 14 上千駄木町会との連絡会
- 24 盆踊り準備委員会
- 27 盆踊り準備会
- 8 / 8 区報配布
- 12 定例役員会、盆踊り準備会
- 16 / 21 盆踊り太鼓の稽古
- 22 / 23 納涼盆踊り大会 大観音境内
- 24 区報配布
- 9 / 2 向ヶ丘地区十二町会長会議
- 8 区報配布
- 13 定例役員会
- 10 / 8 文京地域安全フェスティバル  
文京区民センター 町会長、坂本、鈴木、出席
- 10 区報配布
- 12 定例役員会
- 13 向ヶ丘地区連、協議会 池田（秀）出席

- 22 々、地区連、池田（秀）、小林（清）出席  
25 区報配布

## 防犯部

- 9 / 24 駒込防犯協会全体役員会議  
町会長、防犯部長、出席  
10 / 18 全国地域安全運動（11～20）  
町内防犯パトロール実施（18・19）  
町会長、小川、役員参加

## 婦人部

- 6 / 2 婦人部総会  
16 日赤献血奉仕  
7 / 8 定例婦人部会  
7 / 12 くすの木の郷奉仕（洗濯物たたみ）  
雄川、平林、藍原、参加  
15 資源回収  
8 / 18～19 盆踊り稽古 坂東先生指導  
20 資源回収  
9 / 2 「婦人部」交通保護誘導員委嘱式  
駒込警察署  
6 敬老天ぶら会手伝い 海蔵寺  
駒込母の会支部長会 交通部長出席  
13 敬老祝い品を届ける（38名）  
16 資源回収  
19 婦人部交通安全教室（ダンブ松本）

- 一日署長 グリーンコート13F  
6名参加  
28 婦人部定例部会

- 10 / 1 赤い羽根募金 二十万五千七百円也  
ご協力有り難うございました。  
15 / 16 駒込母の会研修旅行 二名参加  
19 日赤献血お手伝い  
20 廃品回収

## 交通部

- 9 / 4 駒込交通安全協会理事会 交通部長出席  
21 / 30 全国交通安全運動 街頭指導  
婦人部、蓬萊友の会、他の協力

## 文化部

- 7 / 31 「蓬萊たより」54号発行

## 防災部

- 7 / 12 定例役員会で「防災服」新調を決定  
9 / 8 向ヶ丘十二町会連絡協議会  
11 / 14 に防災コンクールを駒込小学校で開催の予定

## 青年部

- 8 / 29 青少年対策向ヶ丘地区委員会  
（ペットボトルロケットで遊ぼう）

- 駒本小学校 中島委員出席  
10 / 10 99教育の森公園フェスティバル（青少年対策）中島、出席

## 計報

当町会の方で七月から十月までにご逝去された方のお名前は左記の通りでございます

記

- |        |          |
|--------|----------|
| 不破エイ様  | 二一・一六・一六 |
| 矢崎武雄様  | 二一・三七・一十 |
| 岡野善太郎様 | 二一・一八・一六 |

## 編集後記

一九九九年も旬日で終わろうとしています。間近にせまった二十一世紀が日本にとって亦、人類にとって本当に幸せな世紀になるのか否か誰にも予測出来ない現実ですが、生きている以上、後戻りする訳にはいきません。老いも若きも元氣を出して新世紀に立ち向かいますよう。

歳時記の中にこんな句を見つけました。  
数え日のひと日ひと日をそばだてる

## 編集委員

- 三宅英三 竹中俊之 常岡裕  
青木喜一 池田 暉 井沢正江